

磐城大衆新聞

毎月二回 一日 十五日發行
 定價 一冊 五十錢
 廣告料 場所指定 十錢
 印刷 編輯 長谷川兵衛
 發行所 磐城大衆新聞社

仕事中心主義の眞理

斯く心得べし

◆偉大な土場◆
 前に述べたが如く人間の社會は一つの偉大な土場である、我々は、この土場に雇はれ持場持場に應じ、技能力量に應じて、年俸なり、月給なり、賃銀なりを支給されて働かざるが人間の、

◆仕事中心だ◆
 「仕事」の意義を深く考へよ、報酬のための仕事でなく、仕事の爲めの仕事と云ふ言葉をよく味はれよ、

本質的の姿である以上は本職をサボッテ内職したり、板機に手を出して、懐を暖めやうといふ算段は二ヶ月三ヶ月は續くかも知れない、或は素晴らしく組織の膨大な土場であるがため役の、

狡猾な怠業が同僚なり、組長なり、技師長なり、重役なり、社長なりの耳に届くまでには二ヶ月や三ヶ月或は半ヶ年一ヶ年の月日要するかも知れぬが、結局知れるものは知れる。そして同僚からは排斥され上役からは眺まれて、次第に運命が傾いて行く。

平産看護婦學校

清野キヨ子女史

社會の進展と共に、社會組織も又た、複雑化されて行くのである。

此の社會の複雑化に比例して、人類の健康上にも大いに支障を齎する事は當然である。

生命の延長の成助者たる濟生一般の奉仕者は、醫師、藥劑士、産婆、看護婦等を指すものであらう。

吾が敬愛する清野女史は、本郡泉村大字玉露の名門にして、性、賢明、貞淑の婦幼少より秀才非凡にして其成人を多大の注目の的となり、即ち鶏群の一鶴であつた、

人生僅かに五十年の行路に於て頗る意義ある天職を發見し、自己は濟生事業に一身を委ねんとして石城郡看護婦養成所第二期生として、世に出で其の、

人の禿筆を以つて盡し難きものである。

度量衡 計量器
 吸入用 酸素
 酸素 吸入器

關内藥局
 電話 四〇番

義俠正義の新人

高橋龜松君

平町——市制施行も目に迫つた平町に——多士濟々の士ありと雖も、我が敬愛措く能はざる高橋龜松 氏をして第一人者とす。

高橋君は普通第一次の町會議員總選舉に際して、最高點を以て當選の榮冠を得た

君は半面に於て、政治家の肌合は勿論、

正論、高説 に主張し三萬町民の總意を代表して常に町民の福利増進に、努力したるは多くの町民の感謝する点である。

財的方面にも非常

藝妓副組 合長で平町田町(電話五一三番)
 大統領で ある玉川
 陽の紅燈會の、

高久病院
 醫學士 高久 忠
 新海 赤羽 清
 醫學士 佐竹 菊雄
 藥劑士 佐竹 菊雄
 内科、小兒科、外科、花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

伊勢屋商店
 阿部 唯一 郎
 電話 四十五番

越乃屋
 平町 二二丁目
 電話 三三〇番

石城郡學校長會
 履物の御用命は是非。。。。

三井 履物店へ
 平町 二二丁目
 電話 一五九番

藤田女學校生徒募集

一、本科 科 五十名
 二、裁縫專修科 百 名
 三、師範科 三十名
 四、專攻科 二十名
 五、本科裁縫專修科二年補欠編入若干名
 (新設)選科(晝間部 五十名
 夜間部 三十名)
 右希望者ハ至急願書提出ノコト
 詳細ハ本校宛學則請求セラルヘシ
 昭和七年三月
 福島縣平町田町

文部大臣
 認可 **藤田女學校**
 電話三二八番

産婆看護婦生徒募集

願書 四月八日迄一成可至急
 修業年限 産婆看護婦を通じて一ケ年
石城 産科婦 學校
 電話三五七番

生徒募集

平 町
平陽女學校
 電話四四五番

詳細ハ本校宛學則請求セラレタシ

生徒募集

時代に適した婦人の職業
産婆看護婦
 卒業一ケ年
 申込四月八日迄
 入學無試験

平町南町

平産婆看護婦學校
 校長 清野キヨ
 電話三〇七番

和洋銅鐵金物問屋

釜屋商店

電話九番九九番

磐城建物株式會社

平町五丁目
 電話五一八番

磐城片倉製糸株式會社

日本石油株式會社特約店

清關内油店

油問屋
 電話一六番

石城郡町村會長

平町二丁目
 有限責任 **平庶民金庫**
 電話四九三番

改良洗張の祖
 萬洗張
小松崎洗張店
 電話三七九番

平町三丁目
大谷時計店
 電話一九番

債券、公債
 兩替、金融

多田井質店
 平町大工町
 電話五九一番

小野長吉
 平町大町

和洋紙、文房具、諸帳簿
 平町一丁目
坂本紙店
 電話一八番

平 町
三國屋
 電話五三三番

新學年
進軍ラッパ!!!

カハノ辭書の御用意が
 出来ましたか?

平町四丁目角 **柴田書店**
 電話二三四五九七番

平町二丁目
西村藥局
 電話三番

内郷村
佐藤三平
 電話四三〇番

荒物商
大一屋商店
 電話一二番

平南町
大森醫院
 電話二五八番